

発行日:平成20年1月1日

発行所:法雲寺

東林山 法雲寺

〒667-1311兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2365

TEL:0796-98-1151・1161 FAX:0796-98-1168



法雲寺報

<http://www.houun.net> Eメール:kouryu@houun.net

旧年中は、何かとお世話になりました。
 本年もどうかよろしくお願いいたします。

平成20年の干支は十二支の最初、ネズミ。世相はじめ、何もかも基本に戻り、最初から見直す必要がある年なのかも知れません。

一二峠御廟の修理完工

この秋より山名氏有縁の方々にご協力をお願いいたしました一二峠(ほいとうげ・萩山地区)にある村岡山名藩初代・禅高公の平成修理が完了いたしました。

修理の概要は崩れかけていた参道石段の積み直し、練塀の新設等です。

去る、12月2日には工事関係者・萩山地区代表・法雲寺総代等で、ささやかな竣工式を挙行致しました。

現在の村岡は1642年に村岡山名3代矩豊公が藩都を兎塚から村岡に移されたことに始まります。矩豊公は村岡を開くに当たり、領内の中心地点に初代・禅高公のお墓を建立し、藩の聖域とされました。但馬村岡にとっても最も大切にしなければならない原点の一つでも有ります。



一二峠御廟遠景/竣工式



清浄な聖域復活となった御廟内

第五部「お大師講」

H19年度のお大師講は、十年に一度の第五部(但馬地域)・部内法要の当番と重なり、いつもより少し早い11月10日に行わせて頂きました。

当日は部内天台宗寺院10ヶ寺から、各御住職に出仕頂き、高祖天台大師・宗祖伝教大師の遺徳を忍び、また檀徒各家の歴代霊位を供養する法要を行いました。

また、法要に先立って早朝より、天台宗が行っていただきます歳末助け合いの一環として、檀徒各家を回っての托鉢も実施させて頂きました。

頂きました浄財5万円(追加分含む)は、香美町社協・善意銀行に3万円、天台宗一隅募金に2万円寄託させて頂きました。

托鉢にご協力頂きました皆様方、大師講の準備運営にご協力頂きました役員様・当番様、誠に有難うございました。



托鉢前の記念写真



托鉢の様子

生死観（他界観）なき時代

（以前の内容と重複しますが・・・）
 テレビ等の報道を見ていると、「人の命も邪魔になれば物を扱うように始末される・・・」そんな、世の中となってしまう。あくまでも他人事、テレビの向こう側の話であって欲しいと願う限りです。

折角手に入れた豊かさなのに・・・

敗戦の痛手からたゆまぬ努力で立ち直り、今では手に入らない物が無いほどに豊かな時代を手に入れた我々です。こんな豊かな時代なのに、何故、ここに来て次々と人と人の信頼を断ち切るようなことばかり、起きてしまうのでしょうか。「物質的な豊かさと引き換えに、心の豊かさや、人への思いというものを失って来た」と良く言われるところです。心の豊かさを心の平安と考えるならば、物があふれても平安を得られないのであれば、戦後60数年、何のために努力を積み重ねてきたのか。疑問に感じてしまいます。

生死観、善悪判断のアンバランス

ある調査によれば中学生の2割近くが「人は死んでも、（お呪いか何かすれば）生き返る」と思っているとか言う話は以前にもしました。

怪奇映画の影響か、テレビゲームのやり過ぎで、現実と虚構の判断があやふやになっているのでしょうか。誰の身にも必ず何時かは訪れる「死」というものに現実感や恐れを持たないで居ます。

中学生の事ばかり悪くは言えません。大の大人にしても事の良し悪しの判断が出来ない人で溢れています。立て続けに起きている汚職や偽装の問題然り、自分自身の些細な欲望や怒りを満たすために、何の躊躇も無く釣合わないう程の重い罪を平気で犯してしまう。一時的な欲や怒りに取り付かれて、何も見えなくなっ

まうのでしょうか？

今の時代我々を含めて、年代が若くなるに従って、生死観（他界観）と言う考えが根付いてないように思えます。根付いてないからこそ「生き返る」と答える中学生も居るのでしょう。

人は何故生まれ、この人生をどう行き、そして死を迎えた後はどうなるのか・・・。人類の永遠の命題ですが、最近ではめっきり考える機会も減ってしまっているようです。それよりも、「一度限りの人生なのだから、今を楽しまない」と・・・の方が重大問題です。

来世を思うことは現世を左右する？

今更、「悪いことをすると地獄に落ちて、閻魔様に舌を抜かれる・・・」とは、言いませんが生死観と言うものは人の人生をどのように生きるか左右する大きな基盤であるように思えます。

例は良くないかもしれませんが、イスラム教国の中には、「ジハード（聖戦）」の名の下に我が身に爆弾をくりつけての自爆テロが繰り返されています。その行動を後支えているのは、「聖戦に身を投じたものは、神の国に生まれる」という生死観であり、他界観です。現実に失望した人々は「神の国に生まれる」ことを願って体に爆弾を抱く訳です。考えて見れば、日本でも戦時中は、戦争で命を落としても英霊として祭られる事を前提にして、人々を敵に向かわせていました。

自爆テロや捨て身の特攻精神を賛美するつもりは在りませんが、このような行為を支えていたのも独特の生死観であることは間違いのないと思えます。生死観というものは、導き方を誤れば、人を死をも恐れぬ方向に導くことも出来てしまうほど、大きな力を有しているのです。

生死観・他界観無き今の時代

この大きな力を有している筈の生死観が年代

が若くなればなる程に、空白に近づいているのが今の現実です。

後を絶たない学生の自殺の事など考えると、元々生死観が空白なのですから、身体的な痛み以外に、自分の死に対して余り恐怖を感じないでしょうし、自分以上に他者の死に対しても恐れを感じていないでしょう。

だからこそ人の命を奪っておきながら「人を殺す経験をして見たかった」とか、殺してしまった相手に「会って誤りたい」という言葉を口にする若者も現に居るわけです。とても、普通の精神状態とは思えません。

生死観の欠如ばかりがその原因とは言いませんが、若し生死観の空白や、「死んでも生き返る」と言うような荒唐無稽な生死観が、こんな傾向の子供たちを増やすことを助長しているのならば、末恐ろしい限りです。

大人世代の責任放棄

日本に古くから伝わっていた魂の輪廻を中心とした生死観は単なる生死観というだけではなく、善を良く伸ばし、悪を抑制する機能も果たして来ました。

本来ならば、我々大人世代が先人達の流れを受け継ぎ、言葉だけではなく生活の中で信仰心や生死観を次代に引き継がせる重要な役割を担っていた筈です。

しかし、我々は折角、縁有って得難い人身を得ながらも、そんなことすら忘れ、「生活のため・・・」とか言い訳しながら、ひたすらに自らの欲望を満たす為だけに、その一生を使い切っているのが現実です。どこかで我々自身も軌道を修正しなければなりません。

「魂と共に在る生」

科学万能の世の中で、今さら魂云々・・・なんて、迷信臭いことかも知れませんが、魂の輪廻転生を軸とした日本に以前在った生死観を

我々は今一度、思い出さねばならないように思えます。

我々の先人達が悠久の時代を重ねて形作ってきた、日本社会・文化・伝統などというものはすべて、源を遡れば「魂と共に在る生」にたどり着くように思えます。日本社会が混沌とした現状にあるのは、「魂なき生」が当たり前になっているからかもしれません。

生死観が空白に近い若い世代に今一度しっかりと生死観を根付

かせる種を蒔く、今生こんじょうの生せいが如何に意味有

るものか伝えるのは、おぼろげなが、らまだ昔からの生死観を記憶している我々大人世代の重要な役割ではないかと思えます。

仕切りなおしの平成20年

平成20年の干支は十二支の一番最初の「ねずみ」。原点に返って一からスタート仕切り直しの年なのかもしれません。

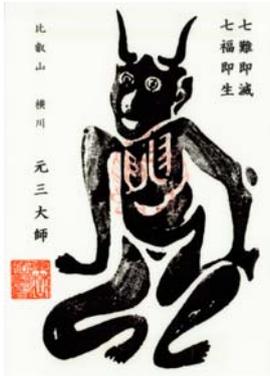
「魂と共に在る生」というものはどのようなものか、「魂」といえば何処と無く心霊的と思われるならば、「魂」を「心」と置き換えて、「心と共に在る生」と考えれば良いのかもかもしれません。

「魂(心)と共に在る生」を実現するには、どんな方法が考えられるか？一度お考え頂くだけでも何か変わるように思えます。



魂(心)無くしては、日本の文化は理解できないのでは？

お札と絵馬



干支絵馬と角大師お札

本年も法雲寺のお札の外に、「角大師のお札」、「干支の絵馬」をお配りいたします。

角大師のお札は、出入り口や窓の上、また柱などにお貼り下さい。今年は貼りやすいようにラミネート加工をし、裏側に両面テープをつけています。(やり過ぎかもしれませんが・・・)

絵馬は杉板の絵馬で、すがすがしい杉の香りがほのかに香ります。お願い事など書いて神棚・仏壇にお飾り下さい。

角大師は魔を良く防ぎ、絵馬は願いを叶えて頂けます。

旧年のお札・絵馬等は注連縄焼きの際に出して頂くか、初詣の際に社寺の旧札奉納のところに納め下さい。

特別寄進のご報告

ご協力感謝申し上げます

補足：観音山墓園内の立木管理は原則、墓地使用者がご自分の責任において管理してください。右は斜面であり、実害が予想されるため法雲寺にて処理した特例です。各家墓地の立木はこまめの手入・管理が後台の為です。



観音山の立木伐採事業

大きくなり過ぎ、「ひっくり返ったら大変・・・」と地元檀家様・役員様にもご心配を掛けておりました観音山墓園の立木(村瀬医院裏側)の伐採ですが、諸般の状況が整いまして、去る11月末、森林組合に伐採を行って頂きました。



伐採前後・国道より望む

伐採木ですが、お貸ししている墓地の境界に土砂止めとして墓地使用家のご先祖が植えられたものと想像しますが、場所が斜面故に立木の管理責任は曖昧なところでもあります。



伐採前後・墓地より望む

今まで何度か地元で伐採の機運があったのですが、実現に至らず。かといって放置しておいても、年々倒木の危険が増すばかりです。

事が起きてからでは取り返しが付かないこともあり、この秋に思い切って伐採を行って頂きました。(経費は85万円、墓園会計より支払い)



クレーン車を入れての伐採は2日程で終了いたしました。村瀬医院様には長年落ち葉、枯れ枝等の落下、また作業中にご不便を掛けました。この場をお借りしてご協力感謝申し上げます。

今後は墓地使用家等周辺関係者のご理解を頂き、伐採費用の協力補充を願い会計負担の軽減を考えています。



クレーンを入れての伐採

(ご協力状況については後日)